

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 28

2013年4月5日

会長 内田聖二

事務局 〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ研究室

tel. 0742-20-3288 / fax 0742-20-3288 email: segu.office@gmail.com

郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

ホームページ: <http://segu.sakura.ne.jp>

◆学会設立20周年を迎えました

1993年11月26日に設立された本学会は20周年を迎えました。これを記念して、昨年10月13日(土)、近畿大学経営学部(東大阪キャンパス)に於いて、20周年記念大会を開催しました。シンポジウムにかえて、中右実先生(筑波大学名誉教授)と大沼雅彦先生(大阪市立大学名誉教授)をお招きし、ご自身のご研究や学会の歩みなどについてご講演を拝聴しました。また、今後の学会活動に対する貴重なご提言も賜りました。おふたりの先生方に心よりお礼申し上げます。(大会報告は5頁に掲載しています)

なお、本年12月に発刊予定の『英語語法文法研究』第20号では、20周年記念の特集を企画しています。ご期待ください。

◆年会費が値上げされました

20周年記念大会総会において、年会費の一部値上げが承認されました。2013年度(本年4月)より一般会員の年会費は5,000円になります。学生会員は従来どおり4,000円です。(6頁の「年会費納入のお願い」をご覧ください)

◆学会HPを移管しました

2012年12月1日より本学会ホームページを<http://segu.sakura.ne.jp>に移管しました。ホームページの開設に際し、内田諭先生(東京外国語大学)に多大なお力添えをいただきました。心よりお礼申し上げます。

なお、事務局のemailアドレスも変更になりました。新emailアドレス: segu.office@gmail.com

◆第21回大会開催案内

第21回大会は下記の要領で行われます。

日時: 2013(平成25)年10月19日(土)

会場: 九州大学大学院言語文化研究院

(伊都キャンパス)

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地

順路:

(1) 福岡空港から

福岡空港—地下鉄空港線 35分—九大学研都市駅—

昭和バス 15分—九大ビッグオレンジ前

(前原・西唐津行の場合は直通/姪浜行は姪浜で乗換)

(2) 博多駅から

博多駅—地下鉄空港線 30分—九大学研都市駅—

昭和バス 15分—九大ビッグオレンジ前

(前原・西唐津行の場合は直通/姪浜行は姪浜で乗換)

博多駅Aバス停—西鉄バス 60分—九大ビッグオレンジ前

(3) 天神から

天神—地下鉄空港線 25分—九大学研都市駅—昭和

バス 15分—九大ビッグオレンジ前

(前原・西唐津行の場合は直通/姪浜行は姪浜で乗換)

天神ソラリアステージ前2Bバス停—西鉄バス 50分—九大ビッグオレンジ前

詳しい経路に関しては以下のアクセスの案内をご参照ください。

<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/info/index.html>

今回のシンポジウムは、「名詞句とその修飾をめぐって」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下のとおりです。ご期待ください。

司会(兼 講師) 中澤和夫 (青山学院大学)
講師 河野継代 (東京学芸大学)
講師 佐々木一隆 (宇都宮大学)

[敬称略]

◆第9回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2013 (平成 25) 年 8 月 5 日 (月)

13 時～17 時 30 分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19

アプローチタワー10階1004室

参加費：2,000円 (資料代を含む)

今回のテーマは、「英語文法・語法の最先端の研究成果を英語教育の場に：音・形・意味・機能・認知から英語の仕組みを解き明かす」です。司会と講師、各自のテーマは以下のとおりです。

司会(兼 講師) 菅山謙正 (龍谷大学)
「はじめに代えて: countability の本質に迫る」

講師 渡辺 勉 (拓殖大学)
「英語の音声と意味の関係: 付加疑問文を出発点として」

講師 田村幸誠 (滋賀大学)
「文法から異文化コミュニケーションへ: 認知類型論からの考察」

講師 住吉 誠 (摂南大学)
「語法・文法研究と英語の変化」

講師 前川貴史 (龍谷大学)
「言語現象の一般性と特異性: A Lucky Three Students の統語論」

講師 五十嵐海理 (龍谷大学)
「メタ表示と否定」

[敬称略]

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、平成25年7月31日までに件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。

◆第13回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第13回英語語法文法学会賞」(2011年4月1日～2012年3月31日までに出版された単行本が対象)について、今回は「該当者なし」という結果になったことが20周年記念大会総会において内田聖二選考委員長より報告されました。

◆第14回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第14回学会賞対象図書は2012年4月1日～2013年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、fax あるいは郵便で2013年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、推薦の内容を email で事務局までお知らせください (〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ研究室内 / fax 0742-20-3288 / email: segu.office@gmail.com)。なお、毎年のお願いとなりますが、学会会員による出版物のすべてを事務局が把握することは困難です。当該年度に単行本を出版された会員の方は、書名、出版社名等を事務局までお知らせくださいようお願いいたします。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

- 第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」(以下「委員会」という)の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。
- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
 - 3 授賞式は年次大会において行う。
 - 4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円を贈呈する。(関係部分一部抜粋)

◆第3回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

第3回「英語語法文法学会奨励賞」の受賞者には下記の会員とその論文が選ばれました。20周年記念大会(近畿大学経営学部)で表彰式が行われ、会長より賞状と賞品が贈られました。

平沢慎也氏「クジラ構文」の「構文」としての意味はどこにあるのか」

(『英語語法文法研究』第19号に掲載)

なお、第4回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

2012年8月7日および本年3月16日に開催の運営委員会において、運営委員として以下の方々の就任が承認されました(任期は2013年4月1日より2015年3月末日まで)。

神崎高明(関西学院大学)

松村瑞子(九州大学)

[50音順。敬称略]

また、本年3月末日をもって、田中実先生(関西学院大学)が退任されました。永年にわたる学会運営に対するご尽力に心より感謝申し上げます。

◆編集委員長の交替

大室剛志先生(名古屋大学)が本年3月末日をもって編集委員長を退任されました。大室先生には引き続き編集委員としてご尽力いただきます。また、後任として、2013年4月1日より菅山謙正先生(龍谷大学)が就任されることが本年3月16日開催の運営委員会において承認されました。

◆編集委員の交替

2012年8月7日および本年3月16日に開催の運営委員会において、編集委員として以下の方々が推薦され、承認されました(任期は2013年4月1日より)。

牛江一裕(埼玉大学)

神崎高明(関西学院大学)

中山仁(福島県立医科大学)

西田光一(下関市立大学)

吉田幸治(近畿大学)

[50音順。敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が編集委員を退任されました。学会運営に対する永年のご尽力に心より感謝申し上げます。

内田聖二(奈良大学)

衣笠忠司(大阪市立大学)

田中実(関西学院大学)

[50音順。敬称略]

◆第21回大会研究発表者募集

第21回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の発表応募規定にしたがい、事務局(須賀あゆみ)宛に奮ってご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内)にまとめて3部(コピーで可)を提出する。ただし、参考文献表は枚数に含めない。発表要旨の冒頭には題名のみを記し、下記4にしたがって、名前・所属は別紙にまとめて記入すること。
4. 発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile(MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「研究発表応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先: segu.office@gmail.com
6. 応募締め切りは**7月25日(木)必着**とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会

事務局(〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ)宛に送付する。

8. 選考は大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(水)までに、予稿集の原稿を9月24日(火)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

◆第21回大会語法ワークショップ発表者募集

第21回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートのものでも結構ですから、会員の方は次の応募規定にしたがい、事務局(須賀あゆみ)宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 大会当日の午前10時30分ごろから12時までが割り当てられ、発表時間は一人12分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内)にまとめて3部(コピーで可)を提出する。ただし、参考文献表は枚数に含まない。発表要旨の冒頭には題名のみを記し、下記4にしたがって、名前・所属等は別紙にまとめて記入すること。
4. 発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 前項の4と同じ内容と発表要旨のfile(MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「語法ワークショップ応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先: segu.office@gmail.com
6. 応募締め切りは**7月25日(木)必着**とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局(〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部言語文化学科 須賀あゆみ)宛に送付する。
8. 選考は大会準備委員会が行い、結果は8月中旬

旬までに通知する。

9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(水)までに、予稿集の原稿を9月24日(火)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

【応募上の注意】

研究発表とワークショップの両方に同時に応募することはできません。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第20号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

なお、最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

<『英語語法文法研究』(第20号)の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(水)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは33文字×30行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは33文字×30行、6枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートは、A4用紙にプリントアウトしたものを4部(コピー可)提出すること。また、氏名、所属、連絡先の住所、電話番号、fax番号、email address、年齢(奨励賞との関係で)は、論文とは別紙で付けること。
6. 前項5と同じもののfile(MS WordあるいはPDF)をemailに添付して、編集委員長(segu.paper@gmail.com)宛に送ること。なお、件名を「投稿」とすること。
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
 - a. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
 - b. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ

空白行を設ける。

- c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
 - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - e. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - f. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
 9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.
Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.
柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」 衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二 (編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.
川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第120巻第5号, 23-26.
Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.
島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』 東京: リーベル出版.
 10. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
 11. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
 12. 原稿料は支払わない。
 13. 送付先: 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1 龍谷大学文学部・文学研究科 英語英米文学科(専攻) 菅山謙正(「投稿論文在中」と朱記のこと)まで。

『英語語法文法研究』第19号に記載されている送付先は上記に変更になりました。ご注意ください。

【応募上の注意】

学会誌への二重投稿、研究発表への二重応募はお控えください。

◆英語語法文法学会20周年記念大会

英語語法文法学会20周年記念大会は2012年10月13日(土)に近畿大学経営学部(東大阪キャンパス)にて開催され、ワークショップ、研究発表、20周年記念講演が行われました。150名の参加者があり、活発な議論、討論が行われました。開催校委員の吉田幸治先生、平井大輔先生をはじめ、お手伝いいただいた近畿大学の学生の方々にお礼を申し上げます。

ワークショップ 10.30-11.55

(B館2階 講義室201)

司会 吉良文孝(日本大学)

1. 「More than」と「以上」
柑本幸子(奈良女子大学大学院)
2. 「観察データに見る(at least) X(,) if not Y 構文の可能な解釈」
明日誠一(青山学院大学非常勤)
3. 「他動詞 attribute の意味と"X be attributed Y" 構文」
金子輝美(愛知淑徳大学非常勤)
4. 「心理形容詞が従える補文標識 that の有無と意味との関連性 —surprised と satisfied に焦点をあてて—」
土屋知洋(防衛大学校)
5. 「Fail to 不定詞の意味と用法」
田岡育恵(大阪工業大学)

研究発表 13.00-14.45

第1室(B館2階 講義室201)

司会 田岡育恵(大阪工業大学)

1. 「「獲得」を表す come by something の意味・用法の記述」
平沢慎也(東京大学大学院)
2. 「進行形の「前段階性」について」
佐藤健児(日本大学非常勤)
3. 「For all to see の語法と多義性について」
南 佑亮(神戸女子大学)

第2室(B館2階 講義室204)

司会 西田光一(下関市立大学)

1. 「動名構文の構文的拡張と誇張解釈」
吉川裕介(佛教大学非常勤)
五十嵐海理(龍谷大学)
2. 「英語における軽動詞構文、同族目的語構文にみられる修飾関係について—have a drink, drink a drink を中心に—」
金澤俊吾(高知県立大学)
3. 「前置詞の補部となる Wh 節の名詞性について」
濱松純司(専修大学)

記念講演 15.35-17.45

(B館2階 講義室201)

司会 内田聖二 (奈良大学)

「非人称it構文—語法と文法の不可分な全体を構文に見る—」

中右 実 (筑波大学名誉教授)

「斜めから見た英語語法文法学会—宛として牛の如きわが半百年の歩みを扱き交せて—」

大沼雅彦 (大阪市立大学名誉教授)

懇親会 18.00-19.30

Cafeteria November (11月ホール地下1階)

◆新入会員紹介

磯野達也 (了徳寺大学)

井上勝博 (追手門学院中学・高等学校)

亀山里津子 (大阪大学大学院)

久米祐介 (藤田保健衛生大学)

柑本幸子 (奈良女子大学大学院)

崎山和樹 (追手門学院高等学校)

佐々木一隆 (宇都宮大学)

島田祥吾 (広島大学大学院)

武内祐樹 (関西学院大学大学院)

田島祐規子 (横浜国立大学)

立石 照

中村優治 (慶応大学)

平沢慎也 (東京大学大学院)

松本 茂

南佑 亮 (神戸女子大学)

森下裕三 (神戸大学大学院)

山本 修 (大阪市立大学) [50音順。敬称略]

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日から年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となりました。つきましては、2013年度(2013年4月~2014年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込料金は各自ご負担ください(郵便振替料金は120円(ATMからは80円)です)。金額欄が9,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費4,000円が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えて、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、大会案内や機関誌等の送付には経費節約のため民間メール便を利用しておりますため、郵便局にお届けの転居先までの追跡送付ができません。発行物送付の遅延にもつながりますので、住所・所属に

変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会ホームページ(<http://segu.sakura.ne.jp/>)の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛お知らせください。(出版月順、出版時期が同じ場合は著者の50音順)

塚本倫久 2012年5月『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』東京：小学館。

衣笠忠司 2012年10月『マンガ対訳本から学ぶ日英対照英語表現研究』東京：開拓社。

河野継代 2012年10月『英語の関係節』東京：開拓社。

井上永幸・赤野一郎(編) 2013年1月『ウィズダム英和辞典』(第3版) 東京：三省堂。

◆学会員の皆様へ

このたび、学会としての社会貢献の一環として、HP上に次のような文面を掲載する予定です。関係者に周知していただければ幸いです。また、ご協力をお願いする場合もあるかと思っておりますので、その節はよろしく願いいたします。

講師派遣について

英語語法文法学会では教育委員会や各種研究団体からの講師派遣要請に対応する用意があります。英語、英文法全般にかかわるトピックについて当該分野を専門とする学会員を派遣いたします。中学校、高等学校の英語教員の研修などに最適です。詳しくは「講師派遣」の件名で事務局(segu.office@gmail.com)までお問い合わせください。

編集後記

昨春思いがけず事務局を仰せつかり、経費削減と年会費の値上げ、ホームページの開設準備、20周年記念大会の運営と、山積みの課題に向き合いながら瞬く間に一年が過ぎました。輪転機をひたすら回して「事務局便り」を発送した初仕事以来、前事務局長の吉良文孝先生、前会計・会員名簿担当の中山仁先生をはじめ運営委員の先生方の惜しみないご支援で、なんとか乗り切ることができました。今後も内田聖二会長のご指導のもと、大竹芳夫会計・会員名簿担当委員とともに、微力ながら学会運営に貢献できるよう努めて参る所存です。会員の皆様方の変わらぬご支援ご協力を何卒よろしく願い申し上げます。(須賀あゆみ)